

SRM学会

関東部会開催

社会・地球環境とリスク管理で報告

ソーシャル・リスクマネジメント学会(理事長:上田和勇専修大学名誉教授、SRM学会)は11月16日、専修大学神田キャンパスで、対面とオンライン参加のハイブリッド方式により、今年度の関東部会を開催した。当日は、約40人の会員を迎え、亀井弘明氏(副理事長・事務局長、日新火災)の総会司会の下、松永光雄氏(常務理事・関東部会担当、東洋大学)の歓迎の言葉に続き、上田和勇理事長が開会を宣言し、地球環境とソーシャルリスク管理の必要性や、SDGs経営促進とウェル・ビーイングの取り組みの重要性など今回のテーマの意義を説明した。



亀井氏



松永氏

最初の研究者、後藤氏(地球環境問題とソーシャルリスク管理の強化)及びその状況をソーシャルリスク管理の重要性や、SDGs経営促進とウェル・ビーイングの取り組みの重要性など今回のテーマの意義を説明した。

企業がどのように対処すべきかについて論じた。これまでの企業は、価値創造の管理について、

行ってきた。しかし、社会・地球環境問題の多くは非財務要素であることから、社会・地球環境問題に企業が取り組むというよりは、経営に非財務要素を実装することを意味すると強調した。継続的な企業活動を支える金融の世界では、社会的インパクト投資といった新たな動きも登場し

SDGsとウェル・ビーイングもテーマに

市場システムに組み込まれた要素、すなわち財務要素の結果指標である市場価格を重視して経営を

ており、企業の社会・地球環境への取り組みは、社会的インパクト投資の評価・管理の枠組みとも

次に、井上昌美氏(尚美学園大学)が「SDGs経営の促進と企業価値向上につながるWell

・ビーイングの取り組みを論述した。PERMA理論や上田和勇氏に代表されるウェ

beingの取り組み」と題し、ウェル・ビーイングが注目される背景や国内外の動向、先行研究等を踏まえた上で、ウェル・ビーイングによる経営上の好影響と想定されるリスク、SDGsとウェル・ビーイングの関係などを確認し、SDGs経営の促進と企業価値向上につながるウェル



上田氏



後藤氏



井上氏



左から上田氏、後藤氏、井上氏

企業に共通するウェル・ビーイング要因などが検討されている。一方、Z世代の意識調査から、両者は互いに必要不可欠な取り組みとい

さらにSDGsの目標達成にはウェル・ビーイングの向上が不可欠であり、またSDGsの目標の達成はウェル・ビーイングの向上に寄与することから、両者は互いに必要不可欠な取り組みとい

結果によれば、同世代の80%がウェル・ビーイングの普及に賛同している。また、経営上のウェル・ビーイングによる好影響と想定されるリスクの検討から、想定リスクを低減し取り組みを推進することは、企業価値向上につながることを示している。

さらに、マクロ環境変化に対応する企業のSRMとRMの今後の課題」をテーマに、研究報告者を中心にして、コイデイナー・上田和勇氏による全体ディスカッションが行われた。上田氏からは事前に研究報告の両氏に対し2問ずつの質問が伝えられており、討論が進行した。その後、出席者やオンライン参加者からの質疑応答もあり、活発な全体ディスカッションが行われた。その後、戸出正夫会長の閉会の辞をもって本年度の関東部会を終了した。